

第1回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザー会議

(平成29年7月24日開催)

主な意見と指摘事項と対応について

1. 干潟の保全計画(案)について

指摘事項	対応
干潟の動物・植物で記載のある種の位置付けは どうなっているのか。 現地を特徴づけかつモニタリングで注目するも のとすべきでは。	ご指摘をいただいた下記生物を掲載しました。 植物、鳥類は現状のまま、底生生物はヤマトシジミ、 エドガワミズゴマツボ(アセスではウミゴマツボと 掲載されていますが、エドガワミズゴマツボ(ウミ ゴマツボ)であり、先生も以前エドガワの名称を使用 したいと仰っていました)カワグチツボ、魚類は エドハゼ、マサゴハゼ、ビリンゴです。 全てアセス掲載種かつ希少種かつ河口干潟の典型 種です。
干潟の回復にあたり、橋脚の新設に伴う影響は 少なからずある。完全に戻すことは困難では。	今後、モニタリング調査を行ないながら、影響が予 測される場合は本会議にてご相談させていただきます。
干潟も重要だが、周辺の水に漬かっている箇所 も貴重な空間であることを考慮するように。	今後、モニタリング調査を行ないながら、影響が予 測される場合は本会議にてご相談させていただきます。
鋼矢板の打設高は干潟の地盤高に揃えて打って いけば、生態系保持空間に水の上よみは生じな いだろう。ただし、矢板打設場所は常時没水状 態とならない地盤高のため、波浪により背面が 掘り込まれる可能性もある。このため、写真等 でモニタリングを実施し、経過を確認していく こと。	矢板を地盤面まで打設することで、背面の地形に及 ぼす影響は少ないとしながらも、潮位によっては、 完全に水没状態が維持するする地盤高ではなく、非 常に微妙な高さであるという指摘と認識しました。 以上の事より、地形測量や写真撮影でモニタリング を実施し、影響が明らかになった場合、対策を検討 いたします。
鋼矢板を設置していない部分の干潟は侵食され るだろう。何か対策が必要では。	深淺測量結果を基に平面図、断面図を作成して検討 しました。 端部には小口止めとして大型どのを設置する計 画といたしました。
埋戻し後の回復状態の確認はどのように考えて いるのか。	工事工期内は請負者であります五洋JVでモニタリ ング調査を実施して、本会議にて報告いたします。 工事完成後は発注者である川崎市が調査を行う予 定です。

埋戻しに用いる表土は、事前調査結果の生物のピーク、土質性状を見ても15cmでよいと思われる	15cmとして計画します。
---	---------------

2. 干潟復元のための事前環境調査結果について

指摘事項	対応
表土の仮置きについては、陸上で湿潤状態で保管できればよい。湿潤状態については、真水や水道水でも問題ない。	陸上仮置きの方角で検討し、管理方法として、湿潤状態の保持、カバーの設置をおこないます。攪拌の必要はないと承認されたため実施しません。
浚渫した部分の貧酸素化が懸念される。貧酸素することで、生物の移動経路が絶たれることや、硫化物が発生することで周辺の生息環境にも影響するだろう。特に夏場（8月から9月）が懸念される。	モニタリングする方向で検討します。タイムスパンは空きますが、ロガーを設置して水質モニタリングを実施いたします。